

## ■ 6. 状態の維持・改善可能性の判定ロジック

状態の維持・改善可能性の評価は、認知症高齢者の日常生活自立度を含む認定調査の結果と主治医意見書の認知症高齢者の日常生活自立度等の組み合わせにより行われます。

認知症自立度Ⅱ以上の蓋然性については、認知症高齢者の日常生活自立度が認定調査、主治医意見書で、一方が「自立またはⅠ」、他方が「Ⅱ以上」と異なる場合に表示されます。

認定調査項目の結果に従い、図表 30～32 に基づいた判断が行われ、介護給付か予防給付かが表示されます。

図表 30 認定調査結果と主治医意見書に基づく給付区分の評価

|                       |        | 認定調査結果の認知症高齢者の日常生活自立度                  |                                        |
|-----------------------|--------|----------------------------------------|----------------------------------------|
|                       |        | 自立またはⅠ                                 | Ⅱ以上                                    |
| 主治医意見書の認知症高齢者の日常生活自立度 | 自立またはⅠ | 「状態の安定性」により評価(図表 32 参照)                | 「認知症高齢者の日常生活自立度Ⅱ以上の蓋然性」により評価(図表 31 参照) |
|                       | Ⅱ以上    | 「認知症高齢者の日常生活自立度Ⅱ以上の蓋然性」により評価(図表 31 参照) | 介護給付                                   |
|                       | 記載なし   | 「状態の安定性」により評価(図表 32 参照)                | 介護給付                                   |

図表 31 認知症高齢者の日常生活自立度Ⅱ以上の蓋然性による給付区分の評価

| 認知症高齢者の日常生活自立度Ⅱ以上の蓋然性 | 給付区分                    |
|-----------------------|-------------------------|
| 50%未満                 | 「状態の安定性により評価」(図表 32 参照) |
| 50%以上                 | 介護給付                    |

図表 32 状態安定性による給付区分の評価

| 状態の安定性 | 給付区分 |
|--------|------|
| 安定     | 予防給付 |
| 不安定    | 介護給付 |

## (1) 認知症自立度Ⅱ以上の蓋然性評価ロジックの仕組みについて

---

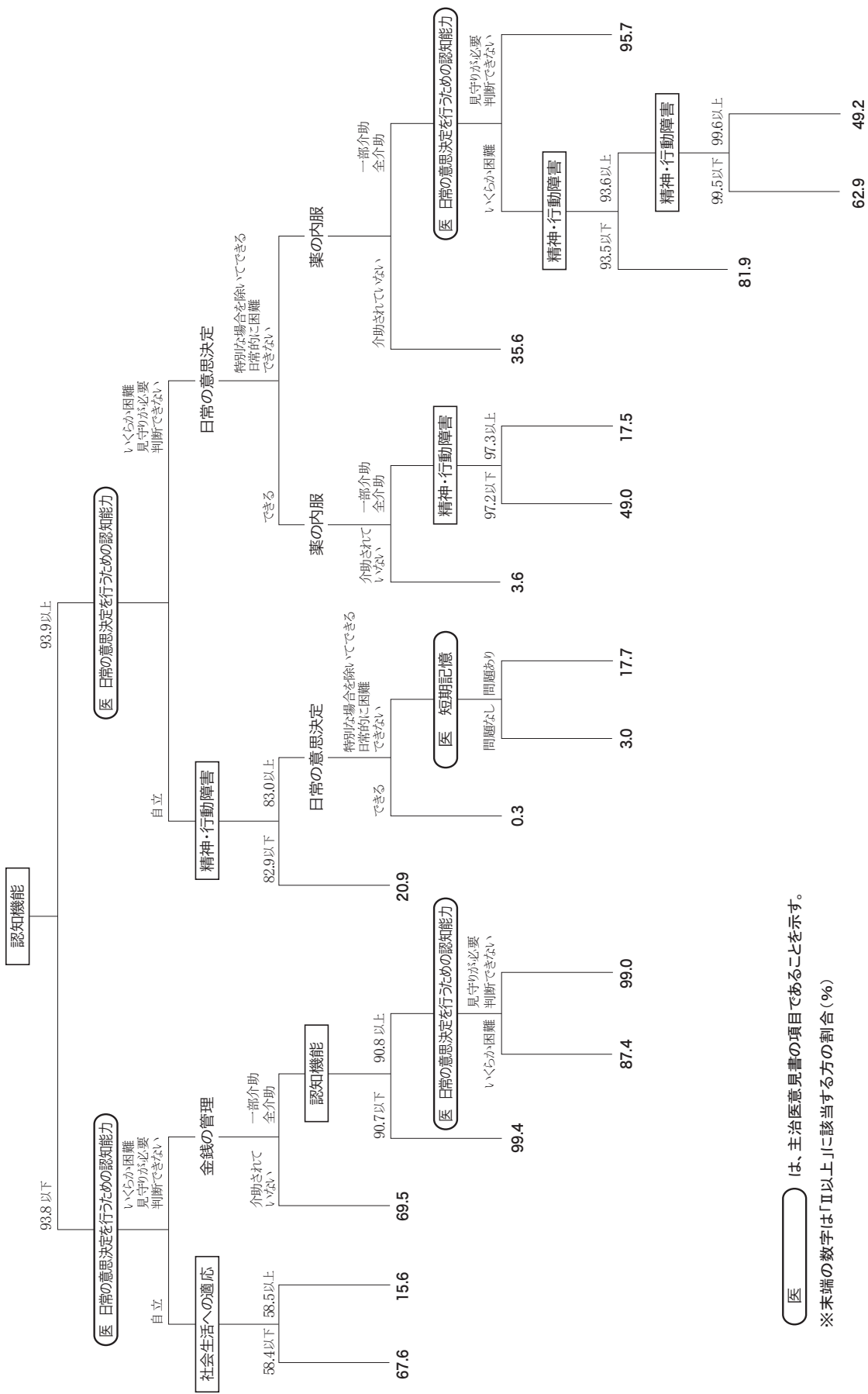
認知症自立度Ⅱ以上の蓋然性評価ロジックは現行の一次判定ロジックと同様に、樹形モデルを使用して作成されています。分岐の条件は一次判定で使用している心身の状態に関する項目（及び主治医意見書の項目）が用いられています。

対象データは平成19年度モデル事業（第一次）の34,401件です。

目的変数に「認知症高齢者の日常生活自立度」、説明変数に心身の状態に関する認定調査項目（62項目）、中間評価項目、主治医意見書からの4項目を設置し、樹形モデルを使用して作成しました。分岐条件として、「分岐先の該当数を250件以上であること」を設定しました。

図表33で認知症自立度Ⅱ以上の蓋然性を%表示しました。

図表33 認知症自立度Ⅱ以上の蓋然性評価ロジックにおける樹形モデル



医 は、主治医意見書の項目であることを示す。

※末端の数字は「Ⅱ以上」に該当する方の割合（％）

## (2) 状態の安定性の判定ロジックについて

要介護認定を2回連続して実施した者のうち、1回目の認定で要介護1又は要支援2と判定された高齢者（126,231件）を、2回目の認定で1回目より重度に判定された群と、2回目の認定が1回目と同じ、又は改善が見られた群の2群に分けて、判別分析を実施しました。うち、2回目の認定で重度化する群を状態不安定、維持・改善している群を状態安定としました。（判別分析は集団をある条件のもと2つのグループに分ける統計手法です。条件となる認定調査項目の回答結果の組み合わせにより、対象となる高齢者が、2回目の認定時に判定が重度化している高齢者か、1回目の認定結果と同じ又は改善されている高齢者かを判別することができます。運動能力の低下していない認知症高齢者に対する加算（認知症加算）に対しても同じ統計手法が用いられています。）

図表 34 状態の安定性判定ロジック

図表 07 状態の安定性判定スコア

|          |          |       |              |       |        |       |        |       |
|----------|----------|-------|--------------|-------|--------|-------|--------|-------|
| 定数項      | -1.047   |       |              |       |        |       |        |       |
| 歩行       | できる      | 0.000 | つかまれば可       | 0.187 | できない   | 0.871 |        |       |
| つめ切り     | 介助されていない | 0.000 | 一部介助         | 0.117 | 全介助    | 0.117 |        |       |
| 洗身       | 介助されていない | 0.000 | 一部介助         | 0.248 | 全介助    | 0.789 | 行っていない | 0.789 |
| 移乗       | 介助されていない | 0.000 | 見守り等         | 0.332 | 一部介助   | 0.760 | 全介助    | 0.760 |
| 排尿       | 介助されていない | 0.000 | 見守り等         | 0.406 | 一部介助   | 0.839 | 全介助    | 0.839 |
| ズボン等の着脱  | 介助されていない | 0.000 | 見守り等         | 0.366 | 一部介助   | 0.451 | 全介助    | 0.775 |
| 口腔清潔     | 介助されていない | 0.000 | 一部介助         | 0.521 | 全介助    | 0.521 |        |       |
| 今の季節を理解  | できる      | 0.000 | できない         | 0.525 |        |       |        |       |
| 毎日の日課を理解 | できる      | 0.000 | できない         | 0.438 |        |       |        |       |
| 介護に抵抗    | ない       | 0.000 | ときどきある       | 0.421 | ある     | 0.496 |        |       |
| 日常の意思決定  | できる      | 0.000 | 特別な場合を除いてできる | 0.338 | 日常的に困難 | 0.618 | できない   | 1.445 |
| 金銭の管理    | 介助されていない | 0.000 | 一部介助         | 0.320 | 全介助    | 0.771 |        |       |
| 薬の内服     | 介助されていない | 0.000 | 一部介助         | 0.482 | 全介助    | 1.079 |        |       |
| カットポイント  | 0.5      |       |              |       |        |       |        |       |